# 文化財を観光の拠点に

## 政府 訪日客増へ新戦略素案

政府が検討している訪日外国人旅行者をさらに増やすための新観光戦略の素案が分かった。保存優先だった各地の文化財を観光に活用し、全国200カ所を拠点とする。鉄道など交通機関の利便性を向上させ、地域間を円滑に移動できるルート「地方創生回廊」をつくる。

2020年時点の訪日客数の目標は3000万～4000万人の範囲で最終調整しており、月内にも戦略を取りまとめる。

訪日客数の目標は①3000万人②3500万人③4000万人――の3案。それぞれのケースについて、東京都内のホテル客室がどれだけ不足するか推計値を算出するなど詰めの作業をしている。

素案によると、歴史的な建物の修理や城跡の復元、郷土芸能のPRを進め、文化財を中核とした観光拠点をつくる。多言語による解説も充実させる。

交通利便性の向上策では、移動の主要手段となる新幹線が停車する約100駅を観光案内の拠点として強化。新幹線のトンネルでの通信環境も改善する。

JR各社のほとんどの鉄道が乗り放題となる「ジャパン・レール・パス」はこれまで、海外でしか購入できなかったが、日本に到着後にも購入できるようにする。

配達サービスを使い、荷物を持たずに移動する「手ぶら観光」の普及に向け、対応可能な空港や駅を増やす。

15年の訪日客は過去最高の1974万人に上ったが、訪問先が東京、大阪、京都、富士山など「ゴールデンルート」に偏っているのが課題だ。

仙台市などを「復興観光拠点都市圏」として重点支援。順次、東北の各都市に対象を広げる。

# ペットと一緒の旅 人気

## 温泉宿、飛行機ツアー続々

ペットを同伴できるツアーや、一緒に泊まれるホテルが人気だ。「家族の一員」として高級感漂う宿や飛行機を使ったツアーにも連れて行きたいという飼い主の要望は強まっており、業界はアイデアを競っている。

東京建物リゾート（東京）は愛犬を同伴できる温泉旅館「レジーナリゾート伊豆無鄰（りん）」（静岡県伊東市）を7日、開業した。全室に露天風呂があり、1日8組限定。この宿は6月末まで予約がほぼいっぱいという。

ヤギミルクベースなどの犬用カクテルがあるバーを設けた「レジーナリゾート富士」（山梨県富士河口湖町）など、同社は愛犬とどこでも一緒に過ごせる宿泊施設を増やしており、担当者は「ソファに汚れや傷が付きにくい強い生地を使うなど、気兼ねなく過ごせるようにした」と話す。

ANAグループは8日、機内も愛犬と隣り合わせで座れるツアー「ワンワンフライトin北海道」の受け付けを始めた。50組分が1日半で売り切れたという。旅行代金は大人2